

令和5年度 秦野支援学校不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 項目・目標別実施結果

項 目	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上(公務外非行の防止、職員行動指針の周知・徹底)	<ul style="list-style-type: none"> ・公務外非行の防止徹底 ・円滑なコミュニケーションの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き職員行動指針ハンドブックを活用し、服務規律の周知・徹底を図った。 ・例月の自己チェックを実施し、教育公務員としての意識を高めるとともに、日常での注意喚起に繋がった。 ・適宜気にかかる教員に対して個別相談を実施し、問題を共有しながら支援に取り組んだ。 ・情報機器の活用でコミュニケーションの円滑化を図り、随時情報をアップデートする職場環境を整えた。
児童・生徒へのわいせつ・セクハラ行為の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・人権侵害行為の未然防止 ・適切な指導の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義や所属での協議を実施し、自分事としてわいせつ・セクハラ行為の根絶意識を持つことができた。 ・啓発資料の周知や例月の自己チェックを実施し、わいせつ・セクハラに関する意識が向上した。 ・教室等の密室化防止のための環境整備及び定期的な巡視を実施した。 ・本年度は新たにLGBTsの児童生徒への理解と適切な支援について研修を実施し、人権意識を高めた。
体罰、不適切な指導の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態をおさえた、適切な指導の徹底 ・児童生徒の人権を尊重した指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重の基本的な姿勢として、「あいさつ」「さん付け呼称」の励行を引き続き行った。 ・児童生徒への丁寧で適切な関わりを、それぞれの部門課程のケース会議等を通して考えることにより人権意識を高めることができた。
入学者選抜、成績処理、進路関係等の不適切な事務処理の防止及び個人情報等の管理、セキュリティ意識の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・確実な業務遂行の実施 ・個人情報に関係する事故の防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル等を活用し、複数でのチェックによる確実な取扱いに継続して注意を促した。 ・部門課程特有の個人情報の取扱いに関するルールの徹底、個人情報管理を徹底した。 ・ヒヤリハット事例を研修を通して共有し、相互に注意喚起を促す取組ができた。 ・日頃の机上整理を例月チェックにより適時意識付けを行い、誤廃棄、紛失を防止した。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・酒気帯び運転および飲酒運転防止、交通事故防止、交通法規遵守 	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発資料や自己チェックの実施の他、適宜打ち合わせで注意喚起を行い安全運転への意識向上を図った。 ・全体打ち合わせの際に即時的な周知等により、安全運転、交通法規遵守の意識向上を図った。
会計事務等の適正執行	<ul style="list-style-type: none"> ・公費及び私費会計の適正な執行・管理 ・備品等の適正な管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会を実施し、私費会計基準及び書式の改善を含む私費会計マニュアルの周知徹底を図った。 ・私費会計基準に基づく適正執行、ダブルチェックによる適正な管理、処理を引き続き推進した。
職場のハラスメントの防止	<ul style="list-style-type: none"> ・パワハラ、セクハラ、マタハラをはじめとするハラスメントの未然防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発資料の周知や自己チェックを継続して実施した。 ・管理職による個別面談、チーム内での情報共有等を実施し、未然防止や迅速な初期対応ができた。 ・同僚性を醸成し、風通しよい働きやすい職場環境づくりができた。

○ 令和5年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和6年度に取り組むべき課題 (学校長意見)

職員一人ひとりが教育公務員としての立場や行動のあり方、より高い倫理観を意識して不祥事ゼロプログラムに取り組んだ。

夏季に実施した不祥事ゼロプログラム研修は、昨年度に引き続き総括教諭が不祥事・事項防止を「自分事として考える」研修にするためにアイデアを出しあった。コロナが5類に引き下げられたとは言え、ここ数年は、同じ学校であっても部門課程以外の教員と会話を交わす機会も少なかったため、結果として同僚性を高めるためのアイスブレイクに始まり、その後それぞれが自ら事故不祥事防止のために心がけていることや実践していることを披露しあう形で実施した。

同僚性を高めるために、グループの人員構成にも気を配り、極力同じ年代の教員で編成したことにより、結果として、それぞれの実例を我が事として実感することができ、良い取組や実践すべき取組もそれぞれのグループから活発に提案され、大きな成果を上げることができた。

また教職員が不祥事防止に対して主体的に取り組めるようにテーマに対して、月替わりで部門課程が討議した成果や提言を事故不祥事防止会議で発表して全校で共有することを継続して取組み、不祥事防止の意識を高めることに寄与したものと考える。

4つの教育の場という本校の職場環境を踏まえつつ、引き続き教職員が自分事として考えられるように取組を継続、発展させ、事故不祥事防止に取り組みたい。